

震災から2年 それぞれの祈り

慰霊碑で追悼式 下宿跡訪ねる遺族



【一月十七日 神戸大NEWS NET・UNN】一月十七日の正午

六甲台の慰霊碑の前で、震災追悼式が行われた。西塚泰美学長をはじめ各学部長、事務職員らが一分間の黙とうを捧げ、白菊を献花した。

この日、早朝から、慰霊碑を訪れる人は後を絶たなかった。灘区六

甲町のアパートで火災に巻き込まれた坂本竜一さん（工・当時三年）

の父親の秀夫さんも訪れ花束をささげた。「被災現場や大学にはな

なか足が向かなくて……。神戸をJRで通るときも六甲道近くに来る

とつらくてたまりません」と、目頭を押さえた。応援団長だった高見

秀樹さん（済・当時三年）の両親も、午前五時四十六分を灘区友田町

の下宿跡で応援団員達と過ごし、正午過ぎに慰霊碑を訪れた。母親の

初子さんは、銅版の秀樹さんの名前を見つめながらただただ冥福を祈

るだけです」と涙をこらえきれない。神奈川県から来たという人や、

学生、センター試験で下見に来た受験生が慰霊碑近くでそっと手を合わせる姿も見られた。

なお、亡くなった学生の下宿のその後のルポを掲載した『神戸大ニュースネット』は慰霊

碑前などで配られた。詳細はホームページ：<http://www.kobe-u.ac.jp/newsnet/>に掲載されている。